

「日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性」円卓会議では下記の要項にしたがって論文を募集します。

■応募資格

- ・ 自国史の研究者（日本人の日本史研究者、中国人の中国史研究者、韓国人の韓国史研究者）
- ・ 博士号取得者
- ・ 下記の円卓会議に参加し発表できる方（合格者の参加費用は全額補助）

■趣旨とテーマ

第4回「日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性」円卓会議
(2020年1月8日～12日、フィリピンマニラ近郊)

「『東アジア』の誕生－19世紀における国際秩序の転換－」

19世紀以前の東アジアは、域内各国の関係は比較的に疎遠で、各国が個別に外国との関係を結んでいた。しかし、西洋の諸国がグローバル化の運動を北太平洋まで及したとき、日中韓の関係は政治・経済・通信のいずれの面でも緊密化し始め、その中で「東アジア」を一体のリージョンと見なす想像力が生れた。今回は、このような東アジアの国際秩序の変化、その中で各国の国内秩序の変化を主題に国際対話を試みる。

西洋が強い商業関心と新たな交通・通信・軍事技術をもって該地域に再登場したとき、中国・日本・朝鮮はどのように西洋を認識したか。伝統的な知の体系とそれはどう絡み合ったのか。いずれの国でも反発と同時に新たな知への憧憬が生れ、一方では伝統への挑戦、他方では伝統の再造が試みられた。例えば、日本では、洋学が学校教育の軸に据えられる一方、秩序の核心に天皇を置き、家族では儒教的な男性優位観が一般化した。この西洋への反発と憧れは国ごとに組み合わせ方が異なり、それは今に至る文化の相違を生み出すことになった。

西洋の進出は各国に自衛を促し、結果的に各国を「国民国家」に変えていった。遅速の差はあっても、国境を明確化し、内部の団結を促すナショナリズムを生み出すことになったのである。その一方、西洋の持込んだ海運網は、人々を国境の外に誘うことにもなった。中国からは東南アジアに加えてアメリカ大陸に大量の出稼ぎ労働者が向い、以前は皆無だった日本からも移民が海を越えるようになった。朝鮮では移民は少なかったが、外国留学生や政治亡命者が現れ、やがて国の将来に大きな影響を及すようになった。ナショナリズムの形成と国境を越える移民・留学・亡命との交錯は、従来の東アジアの秩序を国際関係と国内秩序の両面で大きく変化させ、20世紀の大変動を準備することになる。

今回のフォーラムでは、およそ以上のような問題群を取上げ、3つのセッションに分けて各国の事情を比較し、討論して、19世紀東アジア世界に起きた大転換の全体像を把握したい。

なお、円滑な対話を進めるため、日本語⇄中国語、日本語⇄韓国語、中国語⇄韓国語の同時通訳をつける。円卓会議の講演録は、SGRA レポートして3カ国語で発行し SGRA ホームページに掲載する。

■応募者への要望

上記のテーマで発表・討論したい方は、およそ 2000 字で発表要旨をお寄せください。その中から国境を越えた対話にふさわしいものを選びます。ただし、論文の執筆にあたっては、外国の類似分野の研究者、あるいは自国の他分野の専門家に分るようにご配慮ください。同種の問題が隣国にも存在し、それゆえに対話が可能となること、同時に国家間の異同や解釈の相違が浮彫りとされること。それを通じて、参加者の間に知を共有する新たな場が生れ、将来の知的協業が生れることを期待しています。

■発表言語

日本語、中国語、韓国語のいずれか。

■募集内容

●円卓会議の 3 つのセッション（①西洋への認識、②伝統への挑戦と創造、③国境を越える人の移動）で発表する論文。各言語 1 篇ずつ×3 セッション＝9 篇のうちの約半数。論文は日中韓のうち原著以外の 2 か国語に翻訳され、発表には同時通訳がつきます。（2020 年 1 月 9 日（木）、アラバンのホテル）

※登録費、滞在費（一人部屋）、旅費を渥美財団が負担します。

●分科会の 3 つのセッション（日本語、中国語、韓国語）に各 3 編で計 9 篇まで。

（2020 年 1 月 11 日（土）、フィリピン大学ロスバニョス校）

※登録費、滞在費（相部屋）、旅費（上限あり）を渥美財団が負担します。

■投稿方法

下記の情報を下記へお送りください。

氏名（漢字、ひらがな/ハングル、ローマ字）・所属・連絡先（E メール）

2000 字の発表要旨

600 字程度の略歴・主要論文リスト

推薦者氏名・所属・連絡先（E メール）

送付先・問合せ：kokushi@aisf.or.jp

締切：2019 年 1 月 20 日（※締切変更しました）

■選考結果

学術委員会による選考結果は、2019 年 3 月 31 日までに発表します。

合格者には、アジア未来会議のオンラインシステムへ参加登録をしていただきます。

■論文投稿と参加登録のスケジュール

10 月から	発表者のミニ公募
1 月 20 日	募集締切（発表要旨の投稿）
3 月末まで	発表者の決定、分科会セッションの発表者の選考も兼ねる
4 月末まで	演題、発表要旨、略歴提出
6 月 1 日～7 月 31 日	アジア未来会議オンラインシステムに登録・投稿
7 月末まで	【円卓会議】発表論文（フルペーパー、5～10 ページ程度）提出
10 月末まで	【円卓会議】日中韓三か国語に各論文を翻訳 【分科会】発表論文（フルペーパー、5～10 ページ程度）提出
12 月上旬	【円卓会議】会議資料送付、および予稿集作成
1 月 9 日～10 日	第 4 回「国史たちの対話」円卓会議（第 5 回アジア未来会議で開催）
1 月 11 日	第 5 回アジア未来会議で分科会セッション